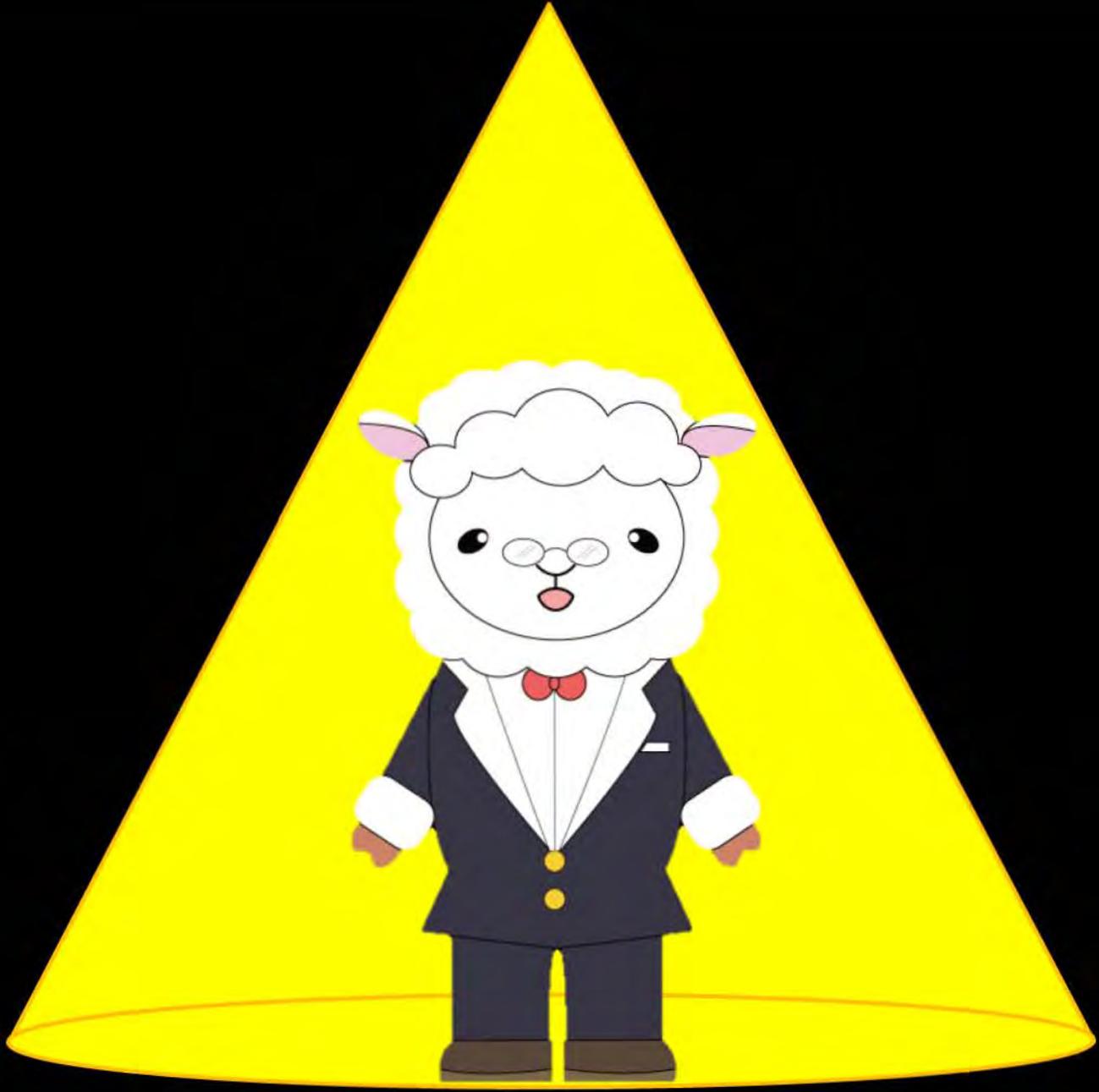


ツアブダーフィリオ

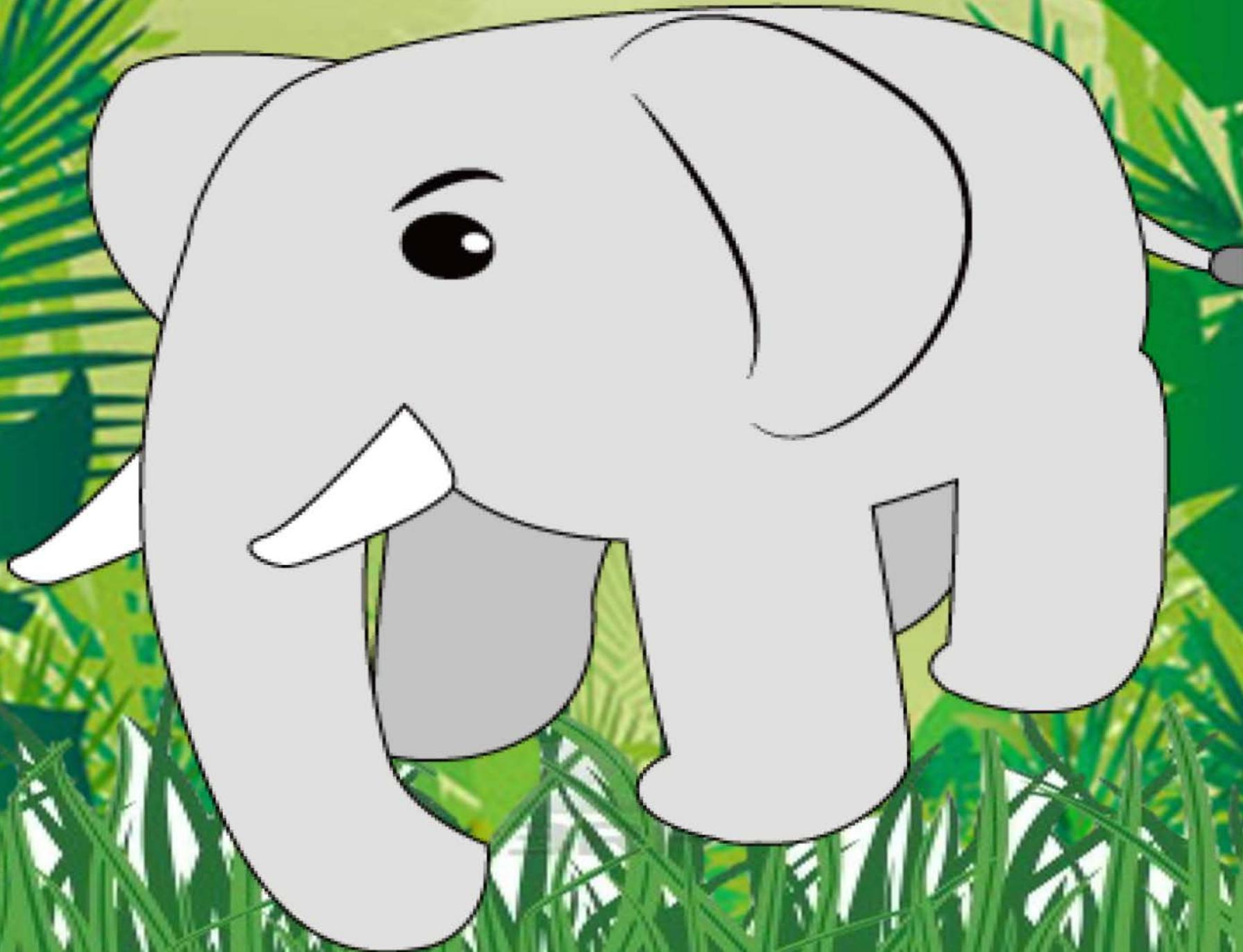


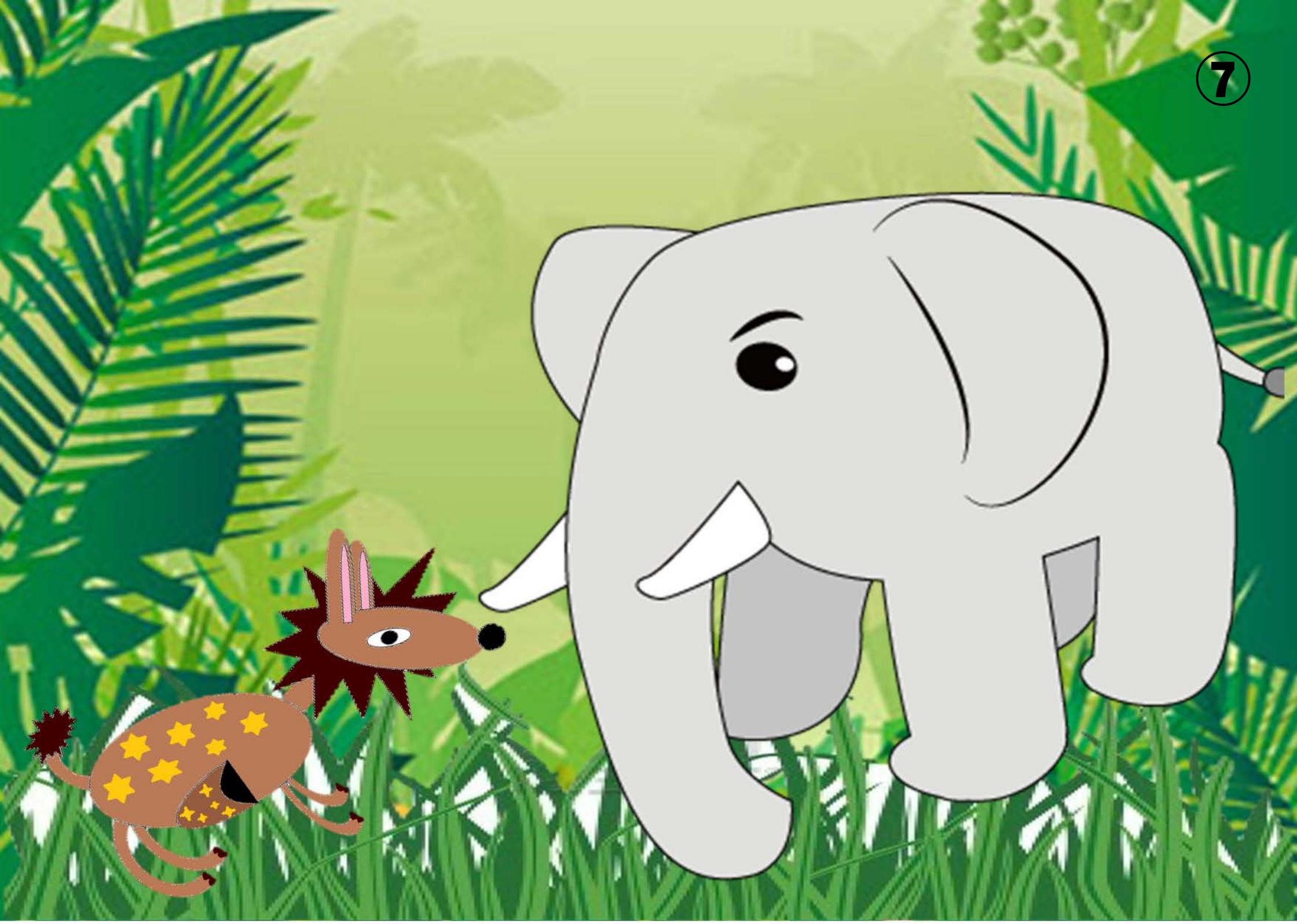












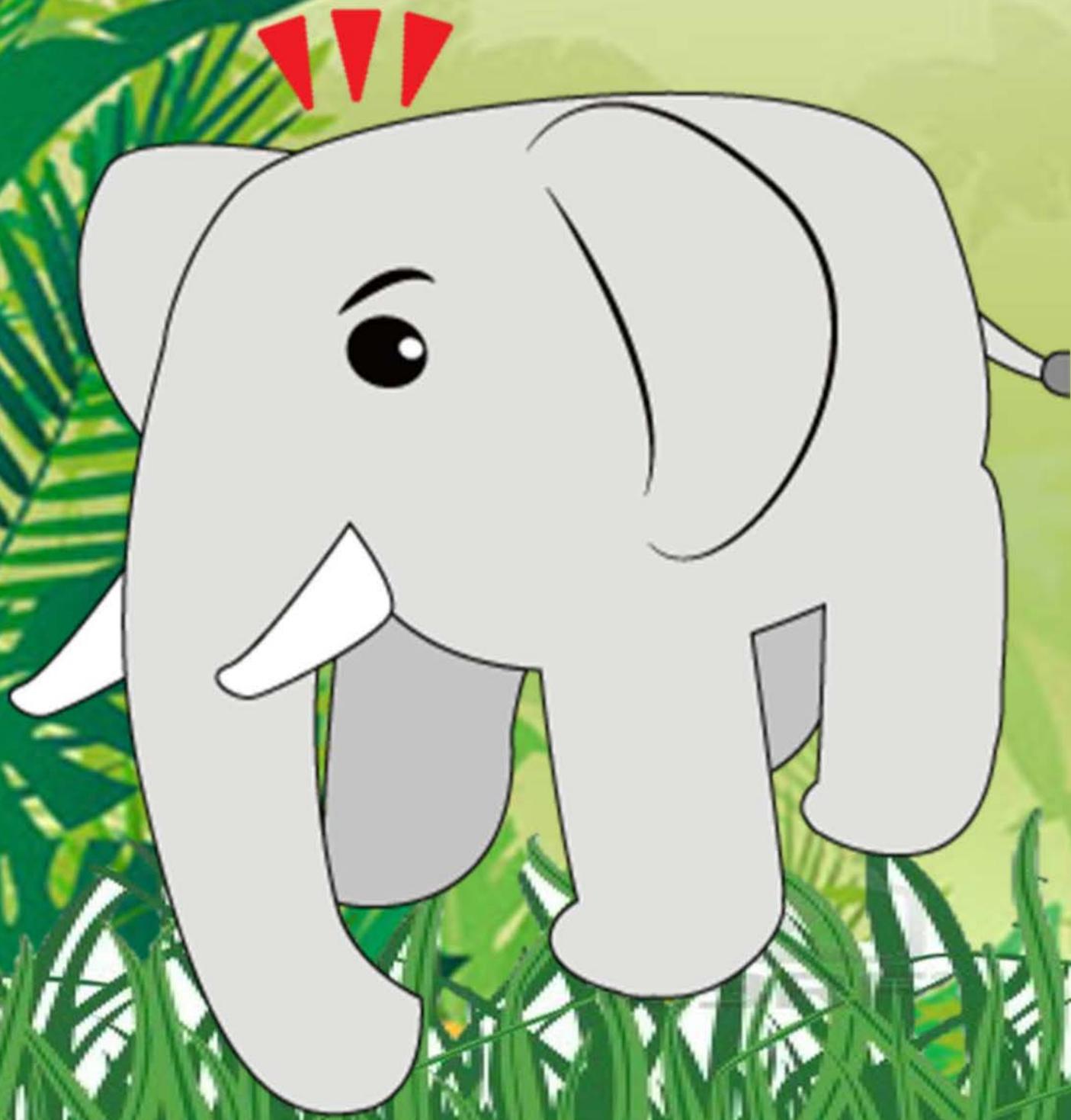








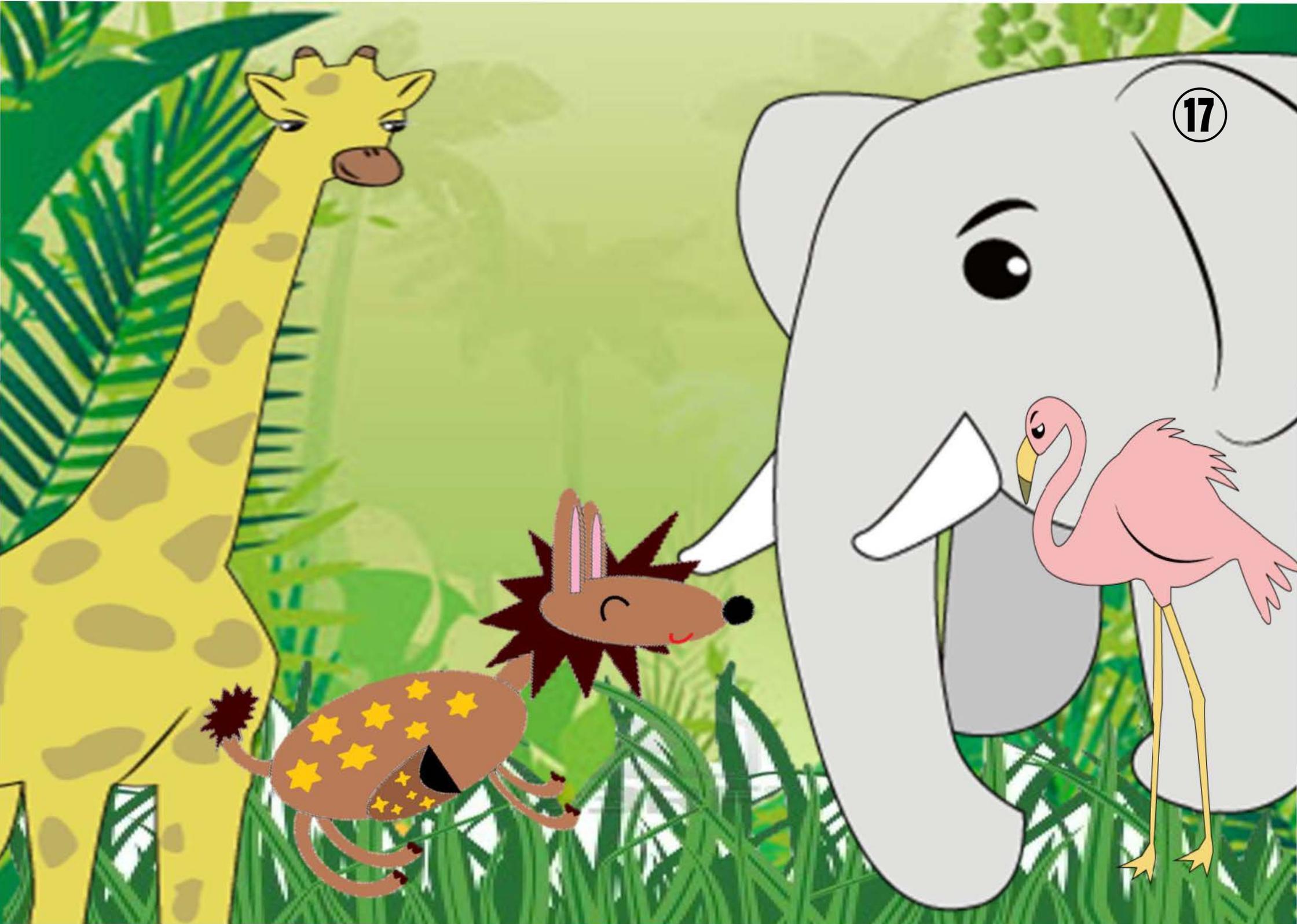


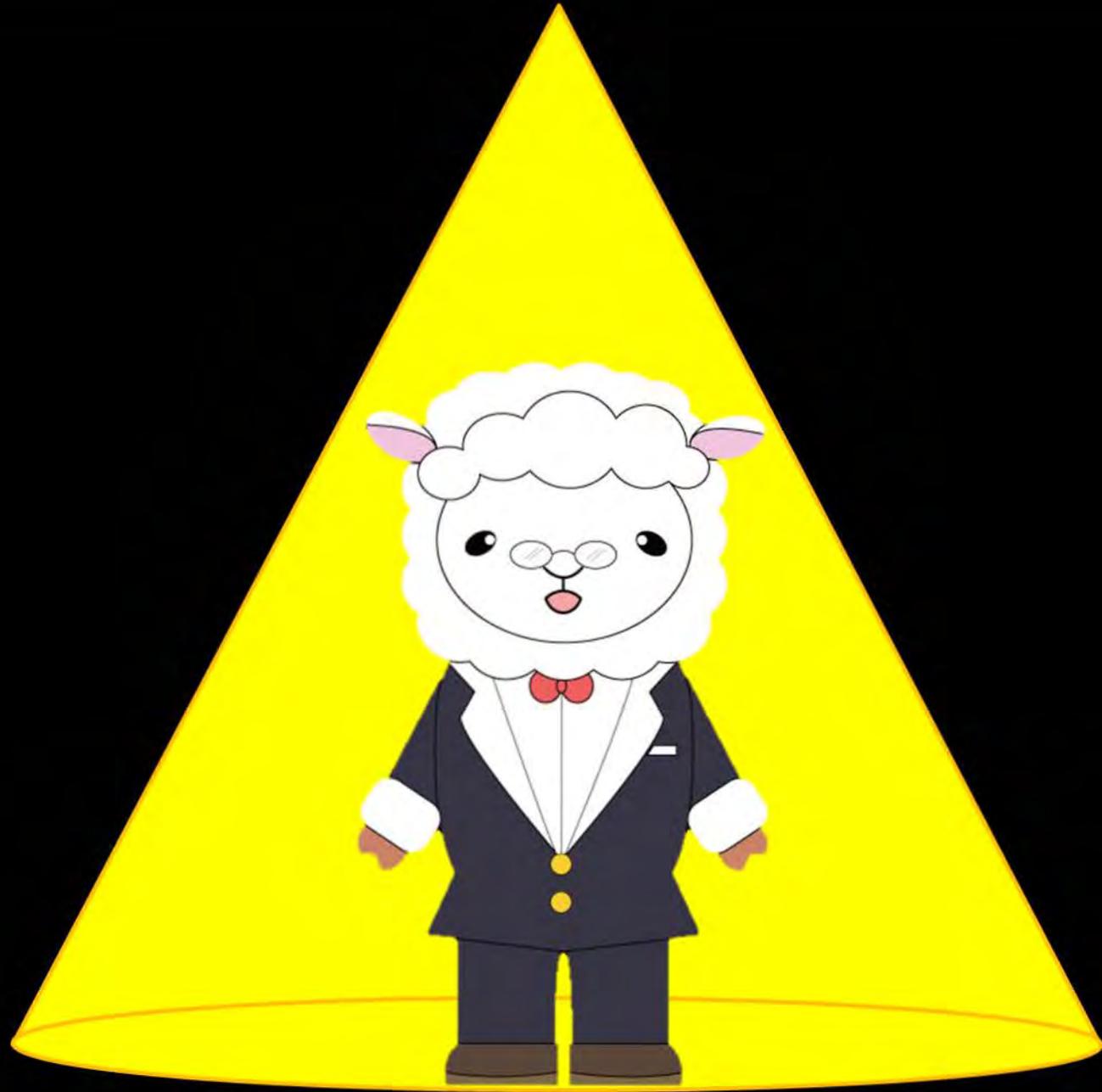












おしまい

①9裏面

① ツァブダーフィリオ

①裏面

② 皆さん、こんにちは。本日の特別ショーをお楽しみください。さて、さっそく、本日の不思議な物語をほんの少しお話ししましょう。できごとはすべて動物の世界で起こります。この世界では、私たちの世界と同様に、必ずしもすべてが美しいわけではなく、すべてがみにくいわけでもありません。すべてが正常なわけではなく、かといってすべてが奇妙なわけでもありません。ところが、いつもびっくりすることが起こるのです！そして、この物語は、そのようなびっくりする出来事の一つについてのお話です。つまり、ツァブダーフィリオという名の、まったく特別な動物の物語なのです。じっくりと鑑賞してください。皆さんがいる場所から動かないでください。さもないと、動物たちが逃げてしまい、物語の最期にどんなことが起こるのか、分からなくなってしまうからです。それでは、後ほどお目にかかりましょう。

②裏面

③こんにちは。みなさん。みなさんは僕が誰か知っていますか？

（観客：キリンです）

どうして分かったのですか？僕はどこかに名札を付けていますか？

（観客：首が長いから、黄色と黒だから・・・）

はい、みなさんのおっしゃるとおりです。ぼくは世界中のすべての動物の中で、一番長い首を持っています。僕のはるか遠くまで見ることができるし、特別な努力をしないで高い木の葉っぱを食べることができます。

そこヘツァブダーフィリオがやってきました。

③裏面

④ツァブダーフィリオ：(たいへん親しみやすく熱心に) こんにちは！キリンさん！

キリン：うわー、びっくりした！急に目の前に現れるんだから。ところで、いったいあなたは誰ですか？

キリンは不思議そうにたずねました。

ツァブダーフィリオ：僕は、ツァブダーフィリオです。

キリン：ツァブダーフィルー・・・って、何ですか？

ツァブダーフィリオ：僕の名前はツァブダーフィリオといいます。友達を探しています。

キリン：うーん。わかんないな。あなたはとっても奇妙に見えますよ。あなたは、ネズミではないし、ライオンでもないしカンガルーでもありません。でも、そのどれにも似ています。僕の友達も、それぞれある一つの動物で、あなたのようにいろいろ混ぜ合わさった動物ではありません。では失礼。友達に会いに行かなくちゃ！ひっひっひ！あなたは本当に奇妙で見苦しい！

そう言うと、キリンは行ってしまいました。

④裏面

⑤ツァブダーフィリオ：(心を傷つけられても)でも、でも、ちょっと待ってください……。

ツァブダーフィリオ：とても悲しいな。麒麟さんはなぜぼくの友達になりたくないの
だろう？みんなはどう思う？（観客に聞いてみる）

さ、もう少し森の中を歩いて、遊んでくれる動物に会えるかどうか調べてみよう。

ツァブダーフィリオは、悲しい気持ちをぐっところえて、歩き始めました。

⑤裏面

⑥ゾウ：こんにちは。みなさん。みなさんは私が誰か知っていますか？

（観客：ゾウです）

どうして分かったのですか？

（観客：鼻が長いから、耳が大きいから・・・）

はい、みなさんのおっしゃるとおりです。ぼくは世界中のすべての動物の中で、一番長い鼻を持っています。体だってこんなに大きいのです。

そこへツァブダーフィリオがやってきました。

⑥裏面

⑦ツァブダーフィリオ：(たいへん親しみやすく熱心に) こんにちは！ゾウさん！

ゾウ：君は誰だい？

ゾウはとても不思議そうです。

ツァブダーフィリオ：僕は、ツァブダーフィリオです。友達を探しています。友達になってくれませんか？

ゾウ：君はいきなり何を言うんだい？君みたいな動物は見たことないよ。見たことがない動物とは友達になんかなれないよ。それに、君みたいな奇妙な動物と一緒にいるところを誰かに見られたら、恥ずかしいし・・・。とにかく、私はお断り！さようなら。

ゾウは行ってしまいました。

⑦裏面

⑧ツァブダーフィリオ：ゾウさんはなぜ、あんなことを言うんだろう？僕が何か悪いことをしたのかなあ？僕といると恥ずかしいなんて、悲しいなあ。でも、きっと僕の友達になってくれる動物に会えるさ、もう少し探してみよう！

ツァブダーフィリオは、また友達を探しに歩き始めました。

⑧裏面

⑨フラミンゴ：こんにちは。みなさん。みなさんは僕が誰か知っていますか？

（観客：フラミンゴです）

そう、僕はフラミンゴ。こんなに美しい鳥はいないでしょ？だから僕は美しいものが大好きなんだ。

フラミンゴは得意そうです。

そこハツァブダーフィリオがやってきました。

⑨裏面

⑩ツァブダーフィリオ：(たいへん親しみやすく熱心に) こんにちは！フラミンゴさん！

フラミンゴ：うわー、誰だよ、いきなりびっくりするじゃないか！

ツァブダーフィリオ：僕は、ツァブダーフィリオです。友達を探しています。友達になってくれませんか？

フラミンゴ：ふーん。友達ねえ。僕の友達にふさわしいのは、美しい動物だけさ！見たところ君は・・・。特にその体の模様は何だい？そんな模様がある動物は見たことないよ。

見た目が悪い動物は、性格も悪いに決まっているよ。そんな動物とは友達になれないよ。

僕はこれから、おしゃれ動物コンテストに出場するのさ。きっと、優勝だろうけどね。だから君に付き合ってる暇はないのさ！さようなら～。

そう言うと、フラミンゴは飛び去ってしまいました。

⑩裏面

⑪ツァブダーフィリオ：どうしてみんな友達になってくれないんだろう？僕はあいさつした

だけなのに・・・。

心も汚いなんて・・・。ひどいよ。

ツァブダーフィリオは、心が折れそうになりながらも、ジャングルの奥地へ去っていきま
した。

⑪裏面

⑫猟師です。獲物を狙いにこのジャングルに入ってきたようです。

猟師：よし！獲物発見！動くなよ～。

キリン：はっ！猟師だ～！逃げろ～！

キリンは一目散に逃げていきました。

⑫裏面

⑬猟師はゾウを見つけたようです。

猟師：今度こそしとめるぞ！

ゾウ：パオーン！まずいぞう！逃げよう！

ゾウはあわてて逃げ出しました。

⑬裏面

⑭次に猟師は、フラミンゴを見つけたようです。

猟師：ゆっくり近づいて……。よし！今だ！ドーン！

弾は、フラミンゴの羽をかすめました。

フラミンゴ：ギャー！危ない！逃げろ～！

フラミンゴは命からがら、逃げ去りました。

猟師：くそ！またしくじったか！他に動物はいないか、奥まで探しに行くか。

猟師はまだあきらめていません。動物を探しに、奥へ奥へと歩き始めました。

⑭裏面

⑮ツァブダーフィリオは何か異変に気づいたようです。

ツァブダーフィリオ：なんか騒がしいな。いったいどうしたの？（観客に聞く）

そうだったのか。ははーん、僕の鋭い鼻のおかげで猟師が近くにいることが分かったぞ！

それに僕は猫のような足を使って、猟師にこっそり近づくことができるんだ。

そして、ライオンのような大きなうなり声を使って猟師をおびえさせて逃げ去らせることができるぞ！

※ ⑮をめぐってすぐにセリフ

⑮裏面

⑯ツァブダーフィリオ：

ガオー！！！！

猟師の背後からツァブダーフィリオが大きなうなり声を出しました。

猟師：ヒャー！助けて～！

猟師は、何が起こったのか全く分からず、森の外へ逃げていきました。

⑩裏面

⑪ツァブダーフィリオの勇気ある行動を見て、他の動物たちは近寄ってきました。そして、今までの自分たちの意地悪なふるまいを詫びました。

動物たちはみな、ツァブダーフィリオに友達になってくれるように頼み、ツァブダーフィリオは喜んで受け入れました。

ツァブダーフィリオ：みんな本当に友達になってくれるの？ありがとう！

この紙芝居を見てくれたみんなもいろいろ助けてくれてありがとう！

さようなら～

⑰裏面

⑱さて、みなさん。これでツァブダーフィリオの物語を終わります。お楽しみいただけましたか？ツァブダーフィリオは、たしかに奇妙な姿をした動物でした。しかし！彼はいろいろな部分を組み合わせて持っていたため、友達を助けることができました。みなさんがこれからすこし奇妙に見える人に会った時には、私はみなさんがツァブダーフィリオのことを思い出してくれることを希望します。その人は、みなさんが夢にも見たことのない才能を持っているかもしれないし、心の通じ合うすばらしい友達になることができるかもしれないのです。

⑱裏面

⑲おしまい